



勝白福

ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

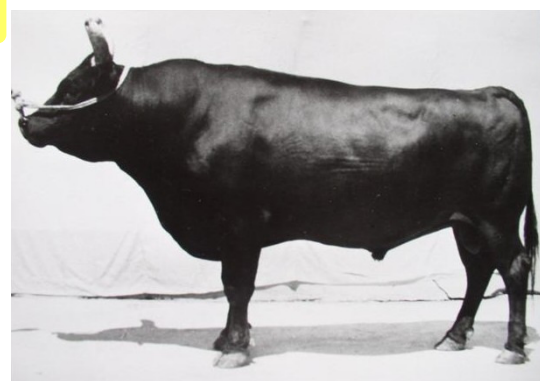
●今年も、広島県種畜場（旧広島牛改良センター）創設100年です。

1 創設及び沿革

広島県の和牛改良を担ってきた組織の「広島県種畜場」は、大正5年(1916年)に神石高原町(旧油木町)に創設され、その後広島県油木種畜場、広島県立畜産試験場油木支場、油木肉用牛改良センター、広島県立畜産技術センター広島牛改良センターと改称され、平成20年(2008年)広島県立総合技術研究所畜産技術センターに統合移転し現在に至ります。



第38の1岩田



第2横利

2 成果

(1)種雄牛の造成

大正9年以降今日まで種雄牛を224頭を繋養し、約80万本精液の供給を行ってきました。

広島県産和牛の基となる比婆系の「第38の1岩田」、神石系の「第2横利」をはじめ、「初代14」、「9中丸」、「第3神竜の4」、質量兼備の「勝白」全国で初めてクローン検定により選抜した「紅勝白」、今年度選抜した歴代トップの能力を持つ「勝白福」などの種雄牛を作出してきました。また、平成3年に効率的な改良を行うため、全国和牛登録協会及び神戸大学と共同で種雄牛及び繁殖牛の能力を育種価として算出するシステムを全国で初めて開発し、種雄牛造成に活用しています。

現在は、改良速度をさらに速めることを目指して、遺伝子情報を活用したゲノム育種価算出システムの開発を行っています。

(2)受精卵の供給

昭和63年度から受精卵移植技術を活用した種雄牛造成を開始しました。また受精卵移植師の養成も行いながら受精卵移植の普及に努め、平成2年度には新たに受精卵棟を整備、平成5年度には民間への受精卵供給を本格的に開始しました。平成22年度からは研究成果を基に体外受精卵の生産供給を開始し、今年度は1,500個の体外受精卵の供給を計画しています。



広島牛改良センター時代の写真

● 『受精卵移植師養成講習会』開催（8/22～9/16）！

受精卵移植師養成講習会が、1ヶ月間にわたり畜産技術センターを会場として開催されました。受講生9名の内訳は、経営者もしくは後継者が7名、雇用者2名で、熱心に受講されその結果全員が合格しました。資格取得後は、獲得した技術を活かして受精卵産子を1頭でも多く誕生させ、県産和牛の増頭に寄与されることを期待しています。



乳用牛による移植実習



受精卵取扱いの実習

● インターンシップ・新任普及員研修（8月、9月）

大学生のインターンシップ6名を受け入れました。インターンシップ受講後に「現場のニーズに応える研究がされている。」「研究成果が現場で活用されている。」という感想が多く、有意義な研修となったようです。

普及員新任者研修では、西部農業技術指導所2名、東部農業技術指導所1名、北部農業技術指導所1名を受け入れました。事前に質問、課題等を提出してもらうことで効率的に研修を行うことができました。

彼、彼女たちが、本県農業を担う優秀な技術者となることを期待しています。



インターンシップ



新任普及員研修

● 全国司厨士協会広島支部視察（9/26）

シェフなど料理人で構成する公益社団法人全国司厨士協会広島県支部の会員の方々20名が食材である和牛肉の生産現場を見たいということで、畜産技術センターの種雄牛を視察されました。具体的な種雄牛名をあげ質問されるなど関心の高さに驚かされました。広島県産和牛として他県に先んじた特色をもった牛肉を作ること期待されていて、今後「うま味」付与などの研究に関して協力をしたいと意思表示がありました。



種雄牛の展示説明



種雄牛舎内で説明

● 非常勤職員への研究・業務説明会の開催

畜産技術センターの非常勤職員を対象に、担当業務の理解を深めてもらうと共に他の業務についても関心をもってもらうことを目的として、毎月1回(出席しやすいよう2日間開催)「レクチャー・プレゼンテーション」と称して研究、事業内容や研究成果について、各部の研究員が交代でプレゼンテーションを行っています。

アンケートを実施したところ、「担当業務の位置づけがよく理解でき、業務にあらたな気持ちで取り組むことができるようになった。」「他の業務について知ることができ勉強になった。」「レクチャー・プレゼンテーションを楽しみにしている。」等の意見が多く、引き続き実施しています。



育種繁殖研究部の研究員の講義



飼養技術研究部の研究員の講義

● 畜産技術センター成果発表会のお知らせ

平成28年度総合技術研究所畜産技術センターの成果発表会を開催します。

本年度のテーマは、

『増やそう！飼おう！広島県産和牛』

1 日時 平成28年12月12日(月) 13:00～15:30

2 場所 県立みよし公園カルチャーセンター 視聴覚室
(所在地:三次市四拾貫町神田谷 電話:0824-66-3366)

3 内容

(1)事例発表(13:10～13:40)

- 演題1「広島血統和牛増産事業の取組について」
農林水産局畜産課 事業調整員 保本 朋宏
- 演題2「広島県産和牛増頭の取組～和牛経営の法人化～」
合同会社向牧場 向 靖弘



(2)成果発表(13:40～14:40)

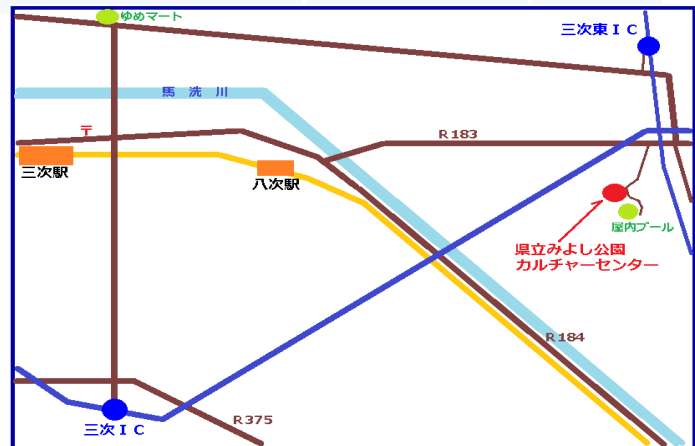
表題	内容	発表者	時間
広島県産和牛の増産に関わる事業及び育種繁殖技術の研究	県有種雄牛の精液供給や、酪農家による和牛生産の推進に必須な和牛受精卵増産の現状を報告し、さらなる和牛生産の効率化を目指した技術の開発について紹介します。	育種繁殖研究部 今井 昭	13:40 ～ 14:10
県産飼料イネ「たちすずか」を活用した高品質な県産和牛肉生産技術の研究	高品質な県産和牛肉を生産する技術として、「たちすずか」を肥育牛用にサイレージ調製する技術と、その混合飼料(TMR)を給与した試験の結果を紹介します。	飼養技術研究部 福馬 敬紘	14:10 ～ 14:40

(3)総合討議(14:40～15:10)

県産和牛増産の現状と課題について討議します。

(4)ポスター発表(15:10～15:30)

県産和牛増産に関する研究開発や技術支援を中心に、ポスターで成果を紹介します。



編集後記:「里山資本主義」の共著者であるNHKの井上プロデューサーが執筆した「牛肉資本主義」という本を読みました。副題が「牛丼が食べられなくなる日」です。牛肉が投機の対象となり値上がりし、いつか牛丼も食べられなくなる日が来るという内容で、牛肉を通して視たマネー資本主義の姿を描いています。興味のある方は読んでみてください。

……HY